

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

「妊娠・授乳と薬」対応基本手引き (改訂 2 版)

愛知県薬剤師会 妊娠・授乳婦医薬品適正使用推進研究班 (班長: 山崎嘉久 あいち小児保健医療総合センター 総合診療部長・保健室長)

<https://www.achmc.pref.aichi.jp/sector/hoken/information/pdf/drugtaioutebikikaitei%20.pdf>

■1 香蘇散、参蘇飲、麦門冬湯、小柴胡湯、柴胡桂枝湯、柴胡桂枝乾姜湯、小青竜湯、葛根湯

疾患:

かぜ症候群

有効性に関する記載ないしその要約:

かぜ症候群で妊娠中の女性に使用が可能な医薬品の例の表中に、『漢方薬: 香蘇散、参蘇飲、麦門冬湯、小柴胡湯、柴胡桂枝湯、柴胡桂枝乾姜湯、小青竜湯 (麻黄含有、長期不可)、葛根湯 (麻黄含有、長期不可)』との記載がある。

■2 桂枝加芍薬湯、小建中湯

疾患:

便秘症

引用など:

後山尚久. 医療用漢方エキス製剤には妊娠中の禁忌生薬はない?. 薬局 2006; 57: 2649-52.

有効性に関する記載ないしその要約:

問い合わせの多い薬物や疾患についての便秘症の項に、下記の記載がある。

『基本的には、桂枝加芍薬湯、小建中湯などが利用されている。』

副作用に関する記載ないしその要約:

『漢方薬でも大黄、ボウショウ、ケンゴシを含む漢方製剤は、流産を誘発する危険性があるため使用しない。』

■3 柴胡加竜骨牡蛎湯、抑肝散、加味逍遙散

疾患:

不眠症

有効性に関する記載ないしその要約:

問い合わせの多い薬物や疾患についての睡眠薬の項に、下記の記載がある。

『漢方薬では柴胡加竜骨牡蛎湯、抑肝散、加味逍遙散などが、妊娠中の女性の証に併せて選択されることがある。』

<以上 1~3 の記載として>

備考:

「虎の門病院の薬剤危険度評価基準 (実践 妊娠と薬 第 2 版)」の中の危険度点数 1 点の評価条件に、「または局所に使用するものおよび漢方薬」と記載されている。

巻末の「妊娠中の女性から相談のあった薬剤一覧表」の中に、五苓散、梔子柏皮湯、麦門冬湯、麻黄湯、小青竜湯、葛根湯、当帰芍薬散、加味帰脾湯、柴胡桂枝乾姜湯、香蘇散、防己黄耆湯、防風通聖散、桂枝茯苓丸、牛車腎気丸の記載がある。

巻末の「授乳中の女性から相談のあった薬剤一覧表」の中に、五苓散、麻黄湯、小青竜湯、葛根湯、柴胡桂枝湯、麦門冬湯、大黄甘草湯の記載がある。